

市展

第13回亀山市美術展目録

会 期 平成30年1月31日(水)～2月4日(日)
午前10時～午後5時（最終日は午後4時まで）

会 場 亀山市文化会館大ホールロビー
亀山市中央コミュニティセンター

主 催 亀山市
後 援 亀山市芸術文化協会、公益財団法人 岡田文化財団
協 力 公益財団法人 亀山市地域社会振興会



目次

○入賞作品紹介・審査評	1
日本画	1
洋画	3
写真	5
書	7
彫刻・工芸	9
○出展作品一覧	11
○第13回亀山市美術展について	16

○入賞作品紹介・審査評

日本画



市長賞

「花の散遊」東川 廣子



議長賞

「母に捧げる花」片岡 弘子



教育長賞

「夕映の釣師」増地 正弘



芸術文化協会会長賞
「いつか見た暁」 西部 隆哉



岡田文化財団賞
「春風」 草川 直子

審査評

昨年よりさらに作品のレベルが向上し、一点一点の質が高くなっています。水墨画は力作ぞろいでしたが、墨の濃淡の表現だけではなく、紙の白さをどう生かすかが重要だと感じます。日本画の場合、様式的で説明的になりやすいので、自分が何を主張したいかを練り、思い切って削いでいく作業に力を入れてほしいと思います。技法・構図なども大切な要素ではありますが、特に展覧会においては、観る人に伝わるような絵を目指す事がとても重要だと思います。

市長賞は、紫陽花のがくを一枚一枚丁寧に描き込んでおり、全体の量感や丸みがうまく表現されています。生き物もいる楽しい空間が表現され、作者の愛情を感じる作品です。背景ももっととけこむ部分があるとより良くなると感じます。消す作業と書き起こす作業の連続でものが浮かび上がってくるため、思い切って消しこむ作業にも力を入れると良いと思います。

議長賞は、花がよく描けており、色もきれいでバランスが良く、葉にも動きがある作品です。ただ、この絵が伝えたいものを明確に表現するには、背景が非常に重要になってくると感じます。花の完成度が高いところに、自分の主張を表現できると次の段階へ大きく進めると思います。

教育長賞は、夕焼け空がいきいきしており、夕暮れの情景が見事に表現されています。手前の黒いシルエットの構図をもう少し工夫するとより良くなると思います。

芸術文化協会会長賞は、インパクトがある作品で、ポップアートの魅力があります。バックの処理や少女の表現も非常に技術力があり、技巧を駆使して描かれています。自分の可能性を追求して描かれていると感じます。

岡田文化財団賞は、日本画にしかできないやわらかい表現であり、小作ながら神経が行き届いた作品です。画面の色のグラデーションがとても美しく描かれています。タンポポの優しい空間や、軽さも表現できており、タンポポの黄色が美しく表現されています。

日本画部門審査員 岩田 隆 櫻井 拙朋

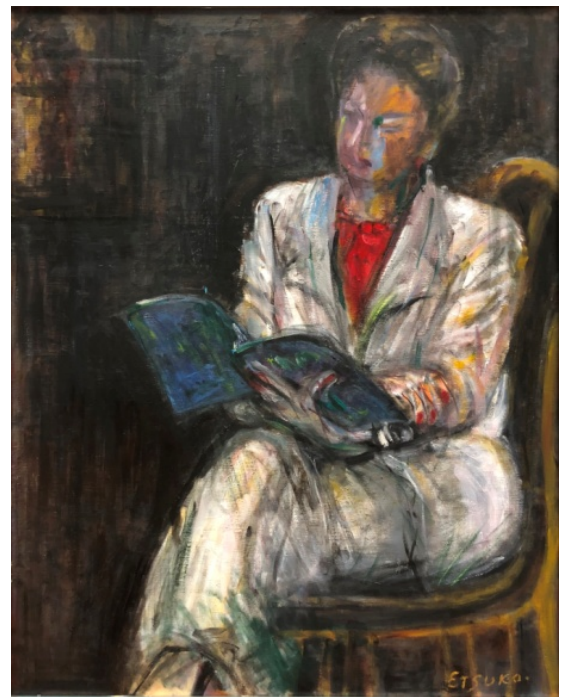
洋画



市長賞
「秋日」田中 香



議長賞
「天空の装いー屋久杉ー」小池 勇



教育長賞
「静寂」瀬瀬 エツ子



芸術文化協会会長賞
「FACE II」 藤縄 正博



岡田文化財団賞
「花よめ」 萩野 佑斗

審査評

昨年度より作品数は減りましたが、全体のレベルとしては、実直に描かれた作品が多いように感じました。その中でも明快でシンプルに描きたいものをストレートに表現しているもので、かつ大作に耐える技量のある作品が入賞に選ばれました。大きい作品を描くことは労力のいる事ですが、画面が大きくなれば、作者の描こうとする意志や描きたいものなども伝わりやすくなるので、ぜひ挑戦してください。

市長賞は、色鮮やかな中にも深みのある色を多彩な表現方法で描いており、色彩の使い方の上手さや豊かさを感じる秀作です。冬に向かう寂しさを感じる季節の中で、赤いケイトウの花を色鮮やかに描き上げています。

議長賞は、樹の瑞々しさと生命力が画面いっぱいに描かれた力強さを感じる作品です。樹の向こうに見える空間までしっかり感じさせる描き込みをしている点も良いです。

教育長賞は、人物の描き方から、人を描こうとする作者の真つすぐな気持ちを感じます。空間の雰囲気も良く、筆致の一つ一つにも必然的なものを感じさせる作品です。

芸術文化協会会長賞は、木の年輪や表皮をよく観察して作者なりに表現されています。画面の凹凸が良く描けており、黒色の処理も上手く、抽象絵画を感じさせるところがあります。

岡田文化財団賞は、目が自由に泳いでいける魅力がある作品で、楽しさが構図に裏付けされています。色づかいが明るく、安定した構図なので見ていて安心感があります。

洋画部門審査員 倉岡 雅 野田 眞章 村田 仁

写真



市長賞

「新緑の頃」 瀧本 麻須美



議長賞

「ゆかいな仲間」 萩原 清春



教育長賞

「街角幻夢」 安藤 久美子



芸術文化協会会長賞
「おつかい」 宮崎 理徳



岡田文化財団賞
「楽しいお散歩」 米村 善広

審査評

全体的に日常を題材にした作品が多く、日常の空間にカメラを向けている姿勢はとても好感が持てます。また、彩度を不自然に上げすぎない、ナチュラルな色合いの作品や、写真のプリントの仕上げが綺麗な作品が多かった点はとても良かったと思います。

そのような中で、技術的なアングルにこだわるだけでなく、写真の中に物語性が感じられるものが入賞に選ばれましたので、ぜひこの点を意識して取り組んでみてください。

また、タイトルにもう一工夫ほしい作品が何点か見受けられました。写真を言葉で説明しようとせずにタイトルを考えるようにしてください。

市長賞は、逆光の光を上手く利用しながら、メインのこいのぼりを大胆に切り取って、視線を人物に当てています。新緑の暖かさや上下左右の拡がりを感じさせる点や、山影を背景にこいのぼりが色鮮やかに浮き出る時間帯を選んで撮影している点も良いです。

議長賞は、撮影者と被写体の人の楽しいやり取りが聞こえてくるような作品です。手前の2人への光の当たり方によって立体感が際立ち、とても綺麗です。店内のコンセントなどの細かな備品が写りこんでいるのも、日常の延長を感じさせ、臨場感が伝わってきます。

教育長賞は、色彩は豊富でありながら派手さを抑え、配列がバランス良く綺麗に整えられています。現実の街の何気ない色を上手く4枚に組み合わせており、配色のセンスの良さを感じます。

芸術文化協会会長賞は、構図を意識せず、撮影者が子どもの頃を思い出しながら撮っているように感じます。あえて白黒写真にしたことで表現力が増し、光沢感を抑えたプリントがレトロ感を際立たせている点も良いです。

岡田文化財団賞は、真四角写真にした点がこの作品を成功させており、構図の上手さを感じる作品です。家族が絶妙なバランスの配列にあり、さらに青いボールがちょうど画面中心にあることで均衡が生まれ、作品を際立たせています。

写真部門審査員 服部 辰美 松原 豊 山口 政宣

議長賞 「錢起詩二首」 竹田 清章

水邊冰凍漸少聲 氣融煙塢曉未明
 東風巧作陽和使 透草通花報發生
 木樨花可畏 日色時搖柱
 扇倚繩柱初晴時 蔓綠新
 筠頻與苔衣染 舊櫺

咸亨壬戌戊戌春日錢起詩二首清章書

市長賞 「杜甫詩」 豊田 真苑

葵隱披垣莫嗟穠
 新正傷已費
 想至珂朝有對史
 數問空如何

真苑書

教育長賞 「与謝野晶子の歌」

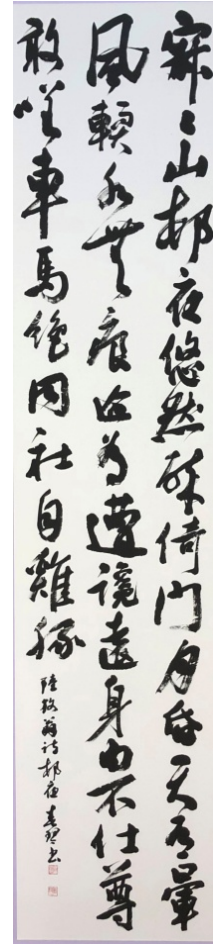
安藤 佑珠

清水（祇園をよ）
 さくら月夜よ
 逢ふ人かな
 美しき紫小
 草が上（影）
 ちの野の春風
 に暖けし朝

佑珠書



芸術文化協会会長賞
「笑門来福」坂口 勝信



岡田文化財団賞
「陸放翁詩」川上 春琴

審査評

幅広い世代と感じられる作品が集まり、一つの書体に偏ることなく、漢字や仮名、調和体、刻字など、さまざまな表現の中で書の伝統を踏まえた作品が多く見られました。大字や篆刻の作品もあると、より幅が広がると感じますので、ぜひ挑戦してほしいと思います。今後は、古典を踏まえた作品に自分の色を出せるよう、書を中心とした幅広い勉強をされることを期待します。

市長賞は、線質が重厚で伸びがあり、迫力と気迫が感じられます。古典のにおいがする優れた作品で、構成もよく練られていると感じます。

議長賞は、脈々と続き、線質に伸びやかさがあります。躍動感があり落款もうまく入っており、構成がしっかりした作品です。

教育長賞は、線質が素直で、明るい作品です。上品にまとめられており、好感が持てます。

芸術文化協会会長賞は、伸びやかな線質で広がりも感じられる点に好感が持てます。

岡田文化財団賞は、線に深さがあり、堂々とした作品です。

書部門審査員 小川 匪石 服部 青洞 水谷 紅楓

彫刻・工芸



市長賞
「鍛金 壺」岡本 利見



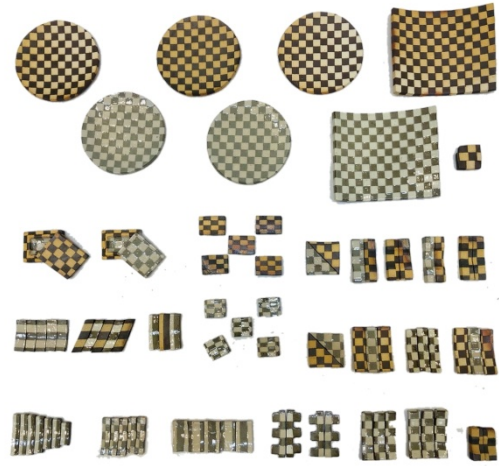
議長賞
「ぴんっ」
尾崎 遥



教育長賞
「顔」廣森 勲



芸術文化協会会長賞
「連山」若林 有美



岡田文化財団賞
「紅白の粘土遊び」今井 正寿

審査評

力強くて大きな陶器の作品が多く出展されています。鍛金・彫刻・人形と多彩な作品があり、楽しく見せていただきました。デザイン性を重視したおしゃれな作品や、キュビズムのような現代美術を感じさせるようなレリーフの作品、土味を生かした陶器の魅力ある作品も素晴らしく、全体的に作者の熱意が伝わってくる作品が多かったと思います。昨年よりも成長した作品や新しい分野として出てきた作品もあり、来年度の作品も楽しみに思う審査でした。

市長賞は、一打一打打ち続ける無心の心が、作者の内なる力強さと精神性を醸し出し、作品に素敵な息吹を吹き込んでいます。作品制作への真摯な姿勢がより一段と魅力ある優秀な作品を完成させています。次回もよりすばらしい作品を期待します。

議長賞は、デッサン力がしっかりしていて、観る人に作品からおしゃべりしてくれるような優れた作品です。ぴんと張り詰めた緊張感を指先の力強さが伝える造形美を糸と三角形の後ろに引っ張る腕の表現で作者の思いを表現している秀作です。

教育長賞は、彫刻の中ではレリーフ（浮き彫り）という壁に掛ける作品なのですが、人の顔を素晴しい造形美で構成した力が素晴らしく、キュビズムの世界を彷彿とさせるシンプルな素晴らしい秀作です。次年度も、キュビズム的な彫刻作品の発展を期待します。

芸術文化協会会長賞は、今回の陶芸作品の中で一番丁寧な仕上げで完成させた秀作です。粘土が持っている粒子の粗さを表に出しながらも曲線美を底の部分の仕上げから口作りまで均整のとれた形態を作りだしています。

岡田文化財団賞は、市松模様で作られた食器たちが楽しいにぎやかさを醸し出しています。純粋なデザイン性に優れた、「使ってみたいな」と思う作品です。今回はこの市松模様を使った作品の発展形をととても楽しみにしています。

彫刻・工芸部門審査員 稲垣 克次 清水 潤 六谷 春樹

○出展作品一覧

【日本画部門】

(敬称略)

入賞・選名	題名	作者名	住所
市長賞	花の散遊	東川 廣子	みずほ台
議長賞	母に捧げる花	片岡 弘子	関町泉ヶ丘
教育長賞	夕映の釣師	増地 正弘	楠平尾町
芸術文化協会会長賞	いつか見た暁	西部 隆哉	四日市市
岡田文化財団賞	春風	草川 直子	阿野田町
奨励賞	和み	松田 純一	野村三丁目
入選	夕暮の荒波	小坂 誠二	布気町
〃	宿場街道妻籠	翠峰	関町泉ヶ丘
〃	花しょうぶ	太田 幸子	和田町
〃	額紫陽花	駒田 嘉代子	楠平尾町
〃	白鷺	上原 史行	川合町
〃	ナイスキャッチ	朝熊 之文	川合町
〃	社 境内	栗本 薫	川合町
〃	麦畑	今田 ゆき奈	鈴鹿市
〃	蜜に夢中	生駒 清子	羽若町
〃	亀山公園	仲野 捷子	布気町
〃	房総半島内濃溝の滝	愛子	北山町
〃	春の多門やぐら	平松 義夫	野村一丁目
〃	亀山の茶景	仲村 春水	鈴鹿市
〃	生命力	三井 友子	野村三丁目
〃	風に立つ白鷺	古川 賢司	みどり町
〃	積恋雪の関宿	弘峰	天神四丁目
〃	彼岸花	服部 由美	鈴鹿市
〃	太森の桜堤	一見 雅子	太森町
〃	古神木	溪峰	北町
〃	みちびき	楠井 豊子	楠平尾町
〃	遊鯉	櫻井 弘之	野村三丁目
無鑑査	野薊	佐野 恵子	南崎町
〃	「新緑の奥入瀬」	古籬 敬廣	川崎町
審査員	紫陽花の頃	岩田 隆	鈴鹿市
〃	プラム	櫻井 拙朋	津市

【洋画部門】

(敬称略)

入賞・選名	題名	作者名	住所
市長賞	秋日	田中 香	辺法寺町
議長賞	天空の装い -屋久杉-	小池 勇	本町三丁目
教育長賞	静寂	瀨瀬 エツ子	四日市市
芸術文化協会会長賞	FACE II	藤縄 正博	野村一丁目
岡田文化財団賞	花よめ	萩野 佑斗	鈴鹿市
奨励賞	善の綱	田口 眞佐子	上野町
入選	ロクロナンにて	林 正夫	アイリス町
"	バラを束ねる女性	原 君子	田村町
"	筋い	坂 裕文	東台町
"	思い出に続く道	長谷川 千香子	関町富士ハイツ
"	天神崎	中西 勝	野村一丁目
"	早朝のブルターニュ	水谷 和則	関町小野
"	コスプレ仲間	服部 裕	羽若町
"	さかなたちの夢	尾崎 美和	本町四丁目
"	私の好きなものたち	倉田 晴華	和田町
"	カラフルな魚たち	加藤 明美	住山町
"	春の林	橘 喜代美	鈴鹿市
"	秋暮れる	斎藤 政子	鈴鹿市
"	薔薇	所 啓子	上野町
"	春想	村田 円莉子	両尾町
"	in the Life	中田 佳子	田村町
"	アンダンテ	中 彩子	亀田町
"	大空で輝く星座	小林 憲史	鈴鹿市
審査員	アトリエの風	倉岡 雅	津市
"	風神	野田 眞章	鈴鹿市
"	Echo	村田 仁	愛知県

【写真部門】

(敬称略)

入賞・選名	題名	作者名	住所
市長賞	新緑の頃	瀧本 麻須美	関町坂下
議長賞	ゆかいな仲間	萩原 清春	能褒野町
教育長賞	街角幻夢	安藤 久美子	江ヶ室二丁目
芸術文化協会会長賞	おつかい	宮崎 理徳	津市
岡田文化財団賞	楽しいお散歩	米村 善広	津市
奨励賞	お祭り談義	織部 好博	関町富士ハイツ
入選	思い出の一枚	井上 アヤ子	みどり町
"	赤が跳ぶ	阿部 充博	みずほ台
"	街かど	井上 英勝	太岡寺町
"	実りの秋	丸橋 久光	関町会下
"	光芒	岡田 昭重	関町会下
"	争奪戦	櫻井 信也	天神一丁目
"	ママー	西村 幸子	井田川町
"	火焰 跳躍	馬路 光一	安坂山町
"	思案帰巢	藤崎 善教	関町市瀬
"	何見てるの？	服部 清和	能褒野町
"	LOVE 満開	片岡 聡子	鈴鹿市
"	漁を終えて	伊藤 隆	菅内町
"	北の旅人	藤村 和昌	みずほ台
"	街角	笠井 俊夫	関町坂下
"	街道で舞う若衆	西川 喜賀	関町福德
"	魔法の鏡	尾崎 里美	辺法寺町
"	青春の奔走	森嶋 克美	関町泉ヶ丘
"	仲良し	伊藤 隆彦	鈴鹿市
"	駿足	村田 芳男	関町新所
"	三姉妹	安藤 明	椿世町
"	憩の時	谷 明	野村三丁目
"	帰り道	菅谷 秀昭	鈴鹿市
"	色づき真っ最中！	小阪 榮嗣	布気町
"	ある日の光景	瀧本 洋一	関町坂下
"	海上坊主	呉山 道夫	和田町
"	終秋	水野 晴輝	両尾町
無鑑査	波濤の海	早川 新一	みずほ台
"	晩秋の山里	平野 武	椿世町
審査員	シャクナゲの小径	服部 辰美	愛知県
"	2006年三重県伊勢市御園町・2013年三重県伊勢市御園町(村の記憶より)	松原 豊	津市
"	虹の架け橋(ささしまライブより名古屋駅方面を望む)	山口 政宣	桑名市

【書部門】

(敬称略)

入賞・選名	題名	作者名	住所
市長賞	杜甫詩	豊田 真苑	菅内町
議長賞	錢起詩 二首	竹田 清章	栄町
教育長賞	与謝野晶子の歌	安藤 佑珠	椿世町
芸術文化協会会長賞	笑門来福	坂口 勝信	鈴鹿市
岡田文化財団賞	陸放翁詩	川上 春琴	菅内町
奨励賞	「秋のうた」	堀田 花	東丸町
入選	四時	平田 英也	野村一丁目
〃	千家元麿の詩	山本 真由美	みどり町
〃	おくのほそ道 旅立ち	輝舟	みどり町
〃	臨寒山子龐居士詩卷(黄庭堅)	神谷 咲良	川崎町
〃	賈島詩	篠原 蕙風	下庄町
〃	法庫門堂中作	中尾 公子	津市
〃	「是」	安田 らむ	本町一丁目
〃	臨 智永「真草千字文」	龍野 愛梨	本町一丁目
〃	松尾芭蕉の句	井本 累内	本町一丁目
〃	正岡子規の句	尾藤 晴香	本町一丁目
〃	亮	中野 梨花	本町一丁目
〃	雲龍風虎	中嶋 千絵	みどり町
〃	室生犀星の詩	菅生 洋子	アイリス町
〃	臨十七帖	高橋 慶水	みどり町
〃	臨離騷經	打田 亮子	鈴鹿市
〃	王鐸詩	安国 友紀子	みどり町
〃	白樂天の詩	堀内 千恵子	みずほ台
〃	王鐸詩	安国 比沙子	みどり町
〃	李白詩	佐野 箕月	川合町
〃	空海詩	櫻井 花筵	井尻町
〃	北宋・蘇軾	西川 溪水	亀田町
〃	李白詩「早発白帝城」	香堂	西町
無鑑査	風花雪月	菅生 游里	みどり町
〃	范成大句	鳶 皓月	鈴鹿市
審査員	歓迎再来	小川 匪石	津市
〃	静黙	服部 青洞	津市
〃	范成大句	水谷 紅楓	桑名市

【彫刻・工芸部門】

(敬称略)

入賞・選名	題名	作者名	住所
市長賞	鍛金 壺	岡本 利見	和田町
議長賞	びんっ	尾崎 遥	東台町
教育長賞	顔	廣森 勲	西町
芸術文化協会会長賞	連山	若林 有美	小下町
岡田文化財団賞	紅白の粘土遊び	今井 正寿	羽若町
奨励賞	現代っ子	竹田 君江	みどり町
入選	酒の器	田所 正敏	関ヶ丘
"	南瓜ととうもろこし彩り	山脇 敏子	南野町
"	炎の神秘	近藤 義則	みどり町
"	いついつまでも	西川 るみ子	川合町
"	焼締泥彩珠壺	竹森 實紀雄	名張市
"	無釉焼め壺	古川 宏	愛知県
"	志野しのぎ紋壺	井上 一男	阿野田町
"	縄文魚群偏壺	堀川 峰男	鈴鹿市
"	緑釉壺	嘉陽 政雄	鈴鹿市
"	古伊賀写し水差し	谷口 秀文	鈴鹿市
無鑑査	油滴天目大皿	珠善	小下町
審査員	実り	稲垣 克次	鈴鹿市
"	青白磁鉢	清水 潤	四日市市
"	Dancer	六谷 春樹	鈴鹿市

○第 13 回 亀山市美術展について

《第 13 回 亀山市美術展出展状況》

部 門	応募数	入選	無鑑査	審査員	特別出展	展示作品
日本画	27	27	2	2	0	31
洋 画	23	23	0	3	0	26
写 真	32	32	2	3	0	37
書	28	28	2	3	0	33
彫刻・工芸	16	16	1	3	0	20
合 計	126	126	7	14	0	147

※ 第 1 回 亀山市美術展(平成 17 年度)以降、同部門で市長賞を 2 回受賞された方は 5 年間無鑑査となります。

※ 彫刻・工芸部門には、第 9 回 亀山市美術展より陶芸を含みます。

※ 入選者数に、入賞者数（奨励賞を含む 6 賞）を含みます。

《審査員及び運営委員》

審 査 員

【日本画部門】 岩田 隆・櫻井拙朋
 【洋画部門】 倉岡 雅・野田眞章・村田 仁
 【写真部門】 服部辰美・松原 豊・山口政宣
 【書部門】 小川匪石・服部青洞・水谷紅楓
 【彫刻・工芸部門】 稲垣克次・清水 潤・六谷春樹

運 営 委 員

【日本画部門】 宮崎観峰
 【洋画部門】 三谷宏子
 【写真部門】 平野 武
 【書部門】 安藤清舟
 【彫刻・工芸部門】 後藤正博

※目録氏名は敬称を略しました。

《会期中スケジュール》

◆作品講評

日 時 平成 30 年 2 月 4 日（日）午後 2 時 30 分 ～ 午後 3 時 30 分
 会 場 亀山市文化会館 作品展示会場